

JICAの技術協力、円借款、無償資金協力それぞれのプロジェクトの各段階における評価について紹介します。

事前段階の評価（事前評価）

「事前評価」は実施前に事業の優先度や必要性を確認し、協力内容や予想される協力効果を検証します。

事前段階のスキーム別比較

	技術協力	円借款	無償資金協力
評価スキーム	事前評価		
タイミング	プロジェクトの実施前		
対象	原則として全プロジェクト	全プロジェクト	原則として全プロジェクト
（備考）	（2億円未満の案件は簡易な評価の適用を可能とする）		（JICAが事前の調査を実施する協力見込み金額2億円以上の案件を対象とする）
評価実施主体	内部評価		
評価の視点・手法	DAC評価5項目の考え方をうけつつ、特に事業の必要性や予想される事業効果を確認するとともに、策定した事業計画を検証。		

実施段階の評価（中間レビュー、終了時評価）

「中間レビュー」は、実施期間が4年以上の技術協力プロジェクトを対象に、協力期間の中間段階で、その妥当性を再検証するとともに、有効性・効率性の観点から目標達成見込み、プロジェクトの促進・阻害要因とその動向等を分

析します。

「終了時評価」は、技術協力プロジェクト終了の半年前をめどに行っている評価です。プロジェクト目標の達成見込み、効率性および自立発展性等を中心に検証します。

実施段階のスキーム別比較

	技術協力	
評価スキーム	中間レビュー	終了時評価
タイミング	プロジェクトの中間時点	プロジェクト終了6カ月前
対象	協力期間が4年以上のプロジェクトを対象	全プロジェクトを対象
評価実施主体	内部評価（相手国政府と合同で実施）	
評価の視点・手法	DAC評価5項目に基づき、特に事業効果の発現状況の評価。必要に応じて評価結果を当初計画の見直しや運営体制の改善に活用。	DAC評価5項目に基づき、特に事業効果の達成状況を総合的に評価。評価結果を踏まえて、協力終了の適否やフォローアップの必要性を判断。

事後段階の評価（事後評価、事後モニタリング）

「事後評価」は、3スキーム共通の評価です。事業終了後の総合的な評価を目的とし、DAC評価5項目を用いて評価を行います。

事後段階のスキーム別比較

	技術協力	円借款	無償資金協力
評価スキーム	事後評価		
タイミング	原則、終了後3年目まで		
対象	2億円以上の全プロジェクト	2億円以上の全プロジェクト	JICAが実施する2億円以上の一般・水産無償および一部の他のサブスキームのもの
評価実施主体	外部評価／内部評価*	外部評価	外部評価／内部評価*
評価の視点・手法	DAC評価5項目に基づく。		

* 原則10億円以上の事業は詳細型（外部評価）、2億円以上10億円未満の事業はJICA在外事務所による内部評価で実施。

「事後モニタリング」は、事後評価の結果、事業効果の発現状況や持続性に懸念があった円借款事業について、完成後7年目に実施している評価です。